

琉球大学学術リポジトリ

沖縄関係 外紙報道（在アジア、欧州等公館関係）

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43809

中華民國

北米局長
参事官
北米課長

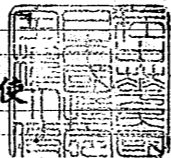
台第1463號

昭和42年10月9日

外務大臣殿

在中華民國

高津大使



琉球問題と自論に当地紙記事

7日付当地紙民族晩報は「佐藤訪米の課題」との見出しで「世界の安全保障が確立される限り、米國は決して琉球を日本に渡さるべきではない」と、大衆下記の通り報じているので、同記事切抜別添の上報告する。

- 秘書官
- 方
- 調査
- 業
- 航空
- 学力
- 連絡調整
- 調査
- 力
- 事務



GA-4

3589 外務省

記

わが國は明治2代にわたって、琉球の宗主國であつたが、1879年日本はこれと武力で領土を自分の領土に編入してしまつた。それから第二次大戦の終了に伴い、琉球はサンフランシスコ条約で米國に引き渡され、米國の統治を受けることになった。しかし、その後、日本はあつちの年段でその返還を要求して来たが、米國には元々領土的野心がなかつたため、日本への返還要求が出来る度に、日本を痛めるため、これを拒否した。米國は1953年奄美大島の日本返還を單獨で決定しており、1956年には、琉球とよめる日本の潜在主権を認め、1961年には故ケネディ大統領は琉球の返還に日本國旗の掲揚を許しており、1962

GA-4

外務省

年には、琉球が日本領土の一部である旨を表明、本年も、琉球の地位に日本後援の持^持を認める筈、一歩一歩譲歩に米軍が、これは明に米国の越権行爲である。しかし遺憾な日本は決してこれと満足せず、最近では琉球施政権の返還を要求しており、先月三木外相訪米の際、又々田務マクナラ国防長官と会談し、施政権返還を求めたが、マクナラ長官は世界の安全保障が破れざる限り琉球を日本へ返還することは不可能なる旨答へて^由である。本問題が日本で後援の運動を起しており、社会党等左翼勢力は「琉球問題」と「白米運動」と利用せんとしており、また本問題を1970年の安保運動に結びつけることとあり、一歩一歩譲歩

政権打倒を狙っている。佐藤総理は本問題の解決が、自分望み通り^{こと}とを承知し^{同総理も承知}ており、かといへ、内外情勢は、米軍と交渉^せざるを得ない^せにあり、そのため、佐藤政府は交渉によって若干の進展が得られれば、保守政権にとって大きな収益であるが、例え全く進展が得られなくても、政府としては最大の努力をして米軍との立場から、国益を納得せしめ得ると考へてゐる。

本月の予定とする佐藤総理訪米は、琉球問題が会談の中心課題となるが、その際米軍は、日本を脅かす佐藤政府を支持するため、八丈の小島、例えは、小笠原群島を日本へ返還することと十分考へる中から、警戒しなげればならぬ。

中国課長

アメリカ局長

参事官下

北米第一課長

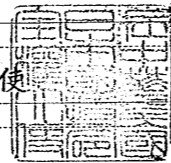
台第390號

昭和44年3月3日

外務大臣殿

在中華民國

島津大使



國際協議方式による沖繩の所屬

決定を主眼として当地紙社説報告

3月2日付当地紙中口時報は「琉球文

化界新聞」の掲載、と題して社説を掲

げた。以下(2月26日~3月6日)当口を訪問中の沖

繩文化界新聞の活動、沖繩と中口の

歴史的関係、沖繩と中口の今後の経済的

文化的交流関係強化について述べ

要処理
首席事務官
南方
渉外調査
(業)
航空
行政協力
連絡調整
調査
方針
局業務



同社説の末尾において、沖繩人将来の地
位について、國際的協議方式が沖繩の部にお
いても各種意見があるが、日本は又も沖繩
を自己の手の中に収めるべく果敢に動いている。我々
は、沖繩が今後のアジアの反共陣地において起
る役割を果し、また沖繩人民の自由と幸福を
願うという見地から、沖繩人将来の地位は、國
際的協議方式により、自ら沖繩人民の自
由意思の尊重を前提とし、適宜解決され
なければならないと考へておる。

何事御参考として社説印後添付報告可
別紙添付。



向琉球文化界訪問團致意

在絡繹不絕的許多外來訪問團體中，我們特別重視琉球文化界訪問團一行十四人。此訪問團由琉球新聞、文化和教育界知名之士所組成，上月廿六日到達台北，預定在此間訪問八天，本月六日返回那霸。

上月廿七日，中琉文化經濟協會歡迎該團全體團員，席間團員山里永吉的講話，尤其令人感動。山里永吉氏追述一千餘年來中琉交往的歷史，認為中琉關係非「兄弟之邦」所能形容，毋寧喻之為「父子之邦」更為恰當。中琉文化經濟理事會長方治的致辭也意味深長，他強調琉球在西太平洋地區居極重要的地位，希望琉球人士發揚東方文化，維護民主自由，共同反對企圖侵略亞洲及世界的敵人。

凡一切略諳中琉歷史的人們都知道，琉球本我國藩屬，歷代被我國文化薰沐，受朝廷冊封。即如山里永吉所指出，目前那霸市琉球大學的大門

編輯，仍於是「守禮之門」四字。此匾額來自明真宗對琉球王冊封，其冊封勅文中為「許琉人崇奉儒家思想，曾贊為「守禮之邦」，琉人引以為榮，乃興建「守禮之門」，用誌不忘。山里永吉曾言及日本琉球人賣中國之罪，其事發生於清光緒四年（一八七八年）除琉人向日本政府提出清廷出使大臣何如璋，亦曾向日本政府提出交涉。琉球日本始於清光緒五年（一八七九年）四月四日，被真為沖繩縣，日軍虜琉球王及其母子而還，純屬強權侵略的結果，若於中琉關係，係植基於王道精神相親相敬，真乃何置天壤。琉球歸日本迄今不過九十年，而中琉人民的感情仍如血肉相連，呼吸相通。慚愧的是，國家處境如此，我們今日對琉球的一切，關懷同情或有餘，支援協助則不足。如今琉球文化界人士組團來訪，仍殷殷以中琉歷史關係為念，且喻二者關係為「父子之邦」，聞之不得不令人興無窮的感嘆！事實上，琉球今日作為美國在太平洋上的首要軍事基地，為亞洲及太平洋地區整體安全屬關

之所繫，琉人所作的貢獻，實無遜於同一區域內任何一國家或地區的人民。我們樂見近年來琉球經濟建設的進步，及其人民管理行政事務能力的提高。若真能作為「同文同種、同節同志」的中國人民，對琉球並無過奢的企求，我們所企求的是琉球人民的意願獲得尊重，自由與安全獲得充分的保障，文化與經濟生活得以不斷地提高。當然，琉球與文化關係須得加強之處甚多，在平等互惠的基礎上，彼此間的貿易如何進一步的擴大，有待雙方進行磋商。我們深信，在當前國際經濟社會中，只須以國民的勤勞為基礎，使生產與貿易相結合，並不斷從生產設備與工藝技術上求進步，任何開發中的國家或地區，皆必能在經濟上自立自強之一日。

琉球文化界訪問團諸君對中琉文化合作與交流提出意見，並具體建議我國政府將故宮博物院一部份國寶運往琉球博物館展出，使嚮往於中國文化的琉球人士，也能有機會接觸到中國文化的精華。我們完全支持這一要求，並認為此舉對於

溝通彼此認識具有重大的意義。但我們認為中琉文化交流所應努力之處猶不止此。琉球文化界訪問團一行十四人，其中包括報紙、電視、廣播、出版、教育及藝術界諸多知名之士，今後如何利用此等大眾傳播工具，交換新聞與節目，又如何互派留學生，或交換師資講學，均可全面商討，從長計議。他姑不論，即就台灣與琉球僅一衣帶水相隔的地理形勢而言，彼此增進文化合作，亦當為對雙方有益之事。

最後，我們仍不能不為琉球未來的前途而擔憂。如人們所知，關於琉球未來的地位，目前在國際間及琉球內部均有不盡相同的意見存在，而日本則一意爭取，不遺餘力。前已言之，我們今日對琉球，所唯一企求者乃琉球人民的自由幸福，使琉球在今後亞洲反共鬥爭中盡其應有的貢獻。因此，我們認為，關於琉球未來的決定，必須以現有的國際協議為依據，經由各有關國際的協商，而在尊重琉球人自由意願的前提下，適當的加以解決，向琉球文化界訪問團全體團員致意，並作誠摯的慰問。

アメリカ局長

参事官

北米第一課

中国譯文

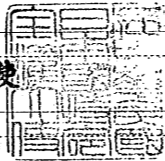
台第409號

昭和44年3月6日

外務大臣殿

在中華民國

島津大使



要處理
首席事務官
渉入調査
漁業
航空
科学協力
連絡調整
調査
力下
局庶務



沖繩問題に関する陳之邁前駐日大使の新聞記者会見談話報告

3月5日付当地紙聯合報に於て、中華民国前駐日大使陳之邁は4日日本入り帰門の際台北岩港に於ける記者会見に於て、沖繩問題に於て、中華民国、韓国両国が沖繩問題に干渉してゐる日本の社会党による非難は、^{根拠が} ~~根拠が~~ ないと反駁した。沖繩

GA-4

外務省

之

の米軍基地は米口と安全保障条約を締結しての大多數の了解に關心事であり、我々は当然この問題に干渉する権利を有してゐる。これは決して日本の内政に対する「干渉」ではない。前途に於て是れである。

何ら御参考までに記事の添付報告あり

別紙添付

GA-4

外務省

【本報訊】我國新任駐美大使陳之邁，於昨日（四）日中午，由東京乘機返國，在機場受到各界人士熱烈歡迎。

陳之邁大使在機場發表談話，略謂：此次返國，係在風平浪靜之中渡過，一切順利。

陳之邁大使 昨日回國述職

陳之邁大使於昨日（四）日中午，由東京乘機返國，在機場受到各界人士熱烈歡迎。陳大使在機場發表談話，略謂：此次返國，係在風平浪靜之中渡過，一切順利。

陳之邁大使在機場發表談話，略謂：此次返國，係在風平浪靜之中渡過，一切順利。

在答記者詢問時，陳之邁大使說，日本社會黨指責中韓「干涉」琉球問題是沒有理由的。他說，琉球在戰後由美軍接管，成爲一個重要的軍事基地，它的存在，關係亞洲的安全。亞洲地區國家多半與美國簽有安全條約，美國在琉球基地問題，自爲各國所關心。我們當然也有權過問；這並不是「干涉」日本內政。

陳之邁大使並透露，中日兩國於一萬五千旅日華僑永久居留權問題的談判，最近已稍有進展，但目前的談判仍屬艱難。他說，此項談判，仍將需要相當時間。

陳之邁大使夫人，昨天也一道返國，他們在機場受到谷正綱、楊西昇、彭孟緝及外交部高級官員的歡迎。

69年3月5日 聯合報

(1) 万博
 (2) 参事長
 (3) 参事長
 (4) 参事長
 (5) 参事長
 (6) 参事長
 (7) 参事長
 (8) 参事長
 (9) 参事長
 (10) 参事長
 (11) 参事長
 (12) 参事長
 (13) 参事長
 (14) 参事長
 (15) 参事長
 (16) 参事長
 (17) 参事長
 (18) 参事長
 (19) 参事長
 (20) 参事長

注意
 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写
 総番号(TA) 9610 北 主管
 69年 3月 10日 16時 10分 北 発着 北1
 69年 3月 10日 18時 22分 本省 着

外務大臣殿 島津 臨時代理大使 総領事 代理
 オキナワ問題(社説)

第1/4号 平 至急
 9日付、当地国民党中央機関紙中央日報は社説を掲げ、オキナワ問題に関し最近日米間で積極的な接触が行なわれ、また日本国内においては、国会等ではオキナワ問題が内政問題として論議されていると見られるところ、本件に対しわれわれの基本的立場を表明したいとして論評したところ、要旨次の通り。

リュウキョウの地位変更の問題は日米両国間の問題ではなく、第2次世界大戦当時の対日参戦国と日本との間の問題であり、前者の中では、中華民国と米国が最も重要である。1943年のカイロ宣言及び1945年のポツダム宣言により、第2次世界大戦前の日本所屬の島しよを処理する原則が取極められ、1951年のサンフランシスコ対日平和条約は、右カイロ宣言及びポツダム宣言により決定された原則に基づき、リュウキョウを米国の信託統治に委ねることとし、これが施行される以前の段階においては、米国がリュウキョウに対し施政権を行使する旨規定しているところ、これらの宣言、条約はすべて対日参戦国の協議

注意
 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写
 よつたものである。従つて、米国がリュウキョウの現在の地位に変更を加えようとするのであれば、必ずやこれら関係諸国との協議により解決しなければならない。これはリュウキョウ問題解決のための原則であり、手続きである。

次にリュウキョウの地位変更の問題は、アジア太平洋地域の安全に関連するものであり、けいびきにこれを扱うべきでない点を理解すべきである。現在アジア太平洋地域に対する中共のきよういはこれまで以上に増大している。核兵器を有するリュウキョウの米軍基地は中共に対する一つの抑止力となつている。核ぬきのリュウキョウの返かんと求める声は中共のいん謀に他ならない。

リュウキョウ問題は多分に日米安保条約改定の問題と絡み合っている。安保改定問題は日本の内政問題であるが、リュウキョウの米軍基地は全アジアの民主国家の安全に係わるものである。従つて、リュウキョウの地位を変更する問題は日米両国の協議によるのではなく、必ずやすべての関係諸国の共同協議により解決されるべき問題である。

日米安保条約の廃棄、リュウキョウの米軍基地の撤去を日本に迫るのは一かんした中共のいん謀である。われわれは、日本政府当局が警戒心を高めることを望むと共に、

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

われわれの友邦がリー・ウキニウ問題解決に対するわれわれの基本的立場を理解する^向ことを希望する。

(3)

- 3 -

外務省

アメリカ局長
参事官
北米第一課長

中国課

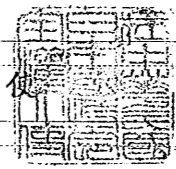
台 第 446 號

昭和44年3月13日

外務大臣殿

在 中 華 民 國

高 津 大 使



要処理
首席事務官
南 方
渉外調査
漁 業
航 空
科学協力
連絡調整
調 査
カナダ
局庶務



沖繩問題に関する当地紙論評
 沖繩返還問題に関する3月10日付中央
 日報社説要旨については在電中114字に
 ついて報告済みである。3月13日付当地紙
 中華日報は社説を掲げ、現在日米両国が
 沖繩の返還を論ずることは沖繩人民の自
 治或は独立を指向して決定された米口に
 対し沖繩の信託統治の趣旨に反するもの

有線

3/10 付

GA-4

260 外務省

2
てあり、沖縄の将来の地位決定は関係諸
国の協議によるべきである旨論評しているの
である。前記の通り印振込付報告である。
なお本件沖縄問題については3月11日
付新生報も沖縄の戦後地位に重点を
置き、上記仲史の報社誌と同趣旨の
論評を掲げている。~~あり~~印振込付
係も別送あり。

3
記
一昨日、佐藤総理は参議院において沖
縄の核抜き返還を認める旨の発言を行な
った。本環球問題は日本の防衛、西太平洋の安全
及び国際的若干の論争点にまで及ぶ問題である
から、我々はこれについて慎重を期して見たい。
第一に、将来について見れば、地球の現在の地
位を簡単に変更すべきではないことはある。第二
次大戦後、地球が米国の信託統治下に入ったのは
敗戦日本が「主権の及ぶ範囲は必ずや本州、四
国、九州、北海道及び吾人の決定するその他の小島
に限定する」とのボウダン宣言の一項を受けた
サンフランシスコ条約の第三條の規定に同意
したからである。然し吾人が今日の地球は西太平洋
の主要な軍事基地となっており、
外務省

リ、米門との信託統治を打ち切っても、また仮令日本
が琉球を引継いでも、琉球の安全は保たれるから
である。

第一に、長期的な観点に立つれば、サンフランシスコ條約では琉球は米門への信託統治
であると規定されている。門遷臺章^のに^あは^る
~~信託~~の信託とは即ち「信託領土の居住民の
政治、経済、及び教育の進展を促進し、同領
土及び同地^の居住民^に適合する特殊事情^を
居住民の自由意志を原則とし、各信託統治
協定の各條款に照し、自治又は独立の漸
次達成を促進する」旨を規定されている。従
って信託統治の最終目的は被信託統治
地域住民の自治又は独立にあることであ
る。従って、日本と米門が現在琉球の

現在の地位を変更することは独立又は自治を
達成した後の琉球^自民の意思に反するもの
であり、信託統治を決定した当初の趣旨に
おそぐわい^とも^なら^ない^と思^はれ^る。

上述の理由に基づき、日本の主張が「琉球
返還問題は、道理上甚だ危険なことであり、
法理上必ず関係諸国の協議による^なら^ない^と
は^なら^ない^と考^えて^いる。1983年米門が琉球
群島以北の奄美群島を返還した際、我々
~~は~~ ^{不同意を表明}した。我々が同意しな
い理由は、琉球を自門領土として^して^いる^こ
とは^打破^りの^理由^となり^なす。当時の次外務部長が
答へた次の理由の通りである。(1)「普
通選挙」等の^口際^法上、^條約^上根^拠
がない。(2)琉球は西太平洋上の戦場

是地である。(3) 将来の琉球の地位は、自由世界の安全の衡準となるべきであり、少数国家の単独の決定に任ずべきではない。(4) 琉球人民の自治の願望を達成すべく協力すべきである。

此間外交部長の報告に上記4点の声明は過去、現在、将来に亘り、琉球の地位を解決する合理的な基礎として、関係各国の一致に同意するものである。我々は茲にて、

副紙添付



琉球地位問題的正當歸趨

日本在第二次世界大戰中，曾一度佔領琉球。戰後，根據《開羅宣言》及《波茨坦公告》，日本應將其侵佔之領土歸還中國。琉球地位問題，遂成為國際法上之重要問題。...

（以下為文章正文，因字跡密集且為繁體中文，內容略述琉球地位之國際法理、美日爭端及歸還中國之正當性。）

（此處為新聞簡訊或廣告，內容包含日期、地點及相關資訊。）



琉球地位問題的正当歸趨

日本已引起了國際間，尤是亞細亞各國的特別重視。前次，美國政府對商復在琉球問題上，曾表示過極大的興趣。據說：美國政府曾向日本提出，將琉球島嶼歸還日本，但必須在國際法範圍內，經過適當的處理。日本對此表示反對，認為琉球島嶼自古以來就是日本的領土，不應受到國際法的干涉。美國則堅持認為，琉球島嶼在戰前是日本的領土，但在戰後，根據《開羅宣言》和《波茨坦公告》，日本應將其侵佔的領土歸還中國。琉球島嶼位於中國與日本之間，其地位問題，不僅關係到中日兩國的利益，也關係到整個西太平洋地區的安全。

關於琉球地位問題，目前尚無定論。但從國際法的原則出發，琉球島嶼的歸屬，應以歷史事實為根據。琉球島嶼自古以來就是日本的領土，這一點是毋庸置疑的。然而，在戰後，由於國際形勢的變化，琉球島嶼的地位問題變得異常複雜。美國在戰後接管了琉球島嶼，並將其作為其在西太平洋地區的戰略據點。日本則要求恢復對琉球島嶼的領土主權。中國則主張琉球島嶼應歸還中國，作為日本侵佔中國領土的代價。

在解決琉球地位問題時，應遵循以下原則：第一，尊重歷史事實。琉球島嶼自古以來就是日本的領土，這一點是國際社會公認的。第二，維護國際法的權威。琉球島嶼的地位問題，應在國際法的範圍內，通過和平的方式加以解決。第三，考慮地區安全。琉球島嶼位於西太平洋地區，其地位問題，關係到整個地區的安全與穩定。第四，尊重各國的利益。琉球島嶼的地位問題，不僅關係到中日兩國的利益，也關係到整個國際社會的利益。

總之，琉球地位問題的解決，應以和平的方式，在國際法的範圍內，通過對話與協商加以解決。不應受到任何強權的干涉。只有這樣，才能實現地區的和平與穩定，維護國際社會的公義與利益。

琉球歸屬問題的關鍵



近來美日兩國，對於改變琉球當前地位問題，接觸頗繁，日方志在達成其數年來所謂「復歸」的目的，其若十議員及政黨且視爲互相爭辯的一個內部政治問題。琉球如何歸屬，關乎亞太地區的安全，應由有關國家協商解決，這是一個主要的關鍵所在，我們就此鄭重表示幾點意見。

琉球目前地位，係二次大戰末期對日作戰諸國所商決，並在戰後的對日和約中，更具體的予以規定。在一九四三年開羅會議，及越三年的波茨坦宣言中，確立處理日本戰

前所屬島嶼的原則，一九五一年前金山和約，依據上項原則，將琉球地位，非片面要求所能實現，亦不應只循變遷談判的途徑來謀求解決，必須由上述有關國家集體協商，把這在法理、程序和原則上所應把握的關鍵。

琉球並不具有很大的經濟價值，即是富有戰略價值的島嶼。共匪竊據中國大陸以後，處心積慮地向海上擴張，在此種威脅之下，琉球遂成爲西太平洋上北接韓日，南連臺灣的防衛連鎖之一。十餘年來，美國在該地建立龐大基地，作爲遠東軍事調度接應的前哨，對支援助越的反侵略戰爭，與就近監視匪幫騷

擾西太平洋，已發揮相當效力，尤其在毛幫瘋狂發展核子的現階段，美國在琉球備存的戰略武器，更具有阻遏敵人核子威脅與軍事挑釁的作用，這是關乎亞太國家集體安全問題，對於琉球未來的地位，亦具需要，對於這些國家都是美國所應負責任，而這些責任亦應爲美國所負。

可是，琉球歸屬問題，近來成爲美日不斷接觸的主要外交課題，日本左派份子及若干政客，藉此作爲製造反美與政爭的題目，尤其共匪從旁煽動，企圖迫使美國放棄這個軍事基地以換取其背上的七刺，乃軍事上主要原因。近年日本左派份子，藉反對美日安保條約的延續，遂大發動罷工罷課，影響社會秩序，打擊政府威信，而藉口要求改變琉球地位，又爲爭取國內各方支持，以造成美日延長安保條約的新困難。實則，上述條約之存在，不但

直接保障日本領土安全，且使日本得以全力從事經濟建設，及先期發展空軍等，士當能了解，並非有損於各國利益。且由有關各國，自應尊重其主權性質，自應尊重其主權性質。



社論

社論

琉球歸屬問題的關鍵



近來美日兩國，對於改變琉球當前地位問題，接觸頗繁，日方志在達成其數年來所謂「復歸」的目的，其若干議員及政黨且視之為內部政治問題。

爲互相爭辯的一個問題，關於琉球歸屬，應由有關國家協商解決，這是一個主要的關鍵所在，我們就此鄰近重表示幾點意見。

琉球目前地位，係二次大戰末期對日作戰諸國所商決，並在戰後的對日和約中，更具體的予以規定。在一九四三年開羅會議，及越二年的波茨坦宣言中，確立處理日本戰

前所屬島嶼的原則，一九五一年金山和約，依據上項原則，將琉球置於美國託管之下，如果要改變琉球地位，非片面要求所能實現，亦不應只循變遷談判的途徑來謀求解決，必須由上述有關國家集體協商，這是在法理、程序和原則上所應把握的關鍵。

琉球並不具有很大的經濟價值，却是富有戰略價值的島嶼。共匪竊取中國大陸以後，處心積慮地向海上擴張，在此種威脅之下，琉球遂成爲西太平洋上北接韓日，南連臺灣的防衛連鎖之一。十餘年來，美國在該地建立龐大基地，作爲遠東軍事調度接應的前哨，對支援韓越的反侵略戰爭，與就近監視匪幫越

據西太平洋，已發揮相當效力，尤其在毛對蘇狂發展核子的現階段，美國在琉球備存的戰略武器，更具有阻遏敵人核子敲詐與軍事挑釁的作用，這是關乎亞太國家集體安全問題，這些國家基於合作互助的需要，對於琉球未來的地位，亦具有發言權，而這些國家都是美國的忠實友邦，其發言權亦應爲美國所享有。

可是，琉球歸屬問題，近來成爲美日不斷接觸的主要外交課題，日本左派份子及若干政客，藉此作爲製造反美與戰爭的題目，尤其共匪從旁煽動，企圖迫使美國放棄這個軍事基地，以拔去其背脊之刺。力是兩項主要原因。近年日本左派份子，藉反對美日安保條約的延續，迭次發動罷工罷課，影響社會秩序，打擊政府威信，而藉口要求改變琉球地位，又爲爭取國內各方支持，以造成美日延長安保條約的新困難。實則，上項條約之存在，不但

直接保障日本的國防安全，也間接減輕了日本在軍事上的財政負擔，得以全力從事經濟發展，造成頻年空前繁榮景象，這是故首相吉田茂先生所奠定的政策，彼邦有識之士當能了解。至於琉球目前地位的改變與否，與安保條約的終止或延長，並非直接關連的問題，前者須由有關各國協商，後者屬於變遷條約性質，自不可混爲一談，爲別有用心者所藉口。

共匪對日本進行挑撥誘惑，無所不用其極，近年東瀛內群衆暴亂事件，多係匪幫策動日共所製造的。在對領土問題方面，北平過去曾支持日本向蘇俄索還遼後，揮定兩島，現又贊同琉球「復歸」。這顯然是種姿態，並非對日本具有好感，此種姿態，應以加強其在國際上反美反俄的聲勢，對於迫使美國放棄其在近來琉球左派勢力活躍，已使美國駐軍感到困擾，如果美國放棄其管

轄權力，這個備存戰略武器的島嶼，將由一柄保護遠東自由國家的核子傘，逐步變爲一座共產勢力伸入西太平洋的橋頭堡，首先受到威脅的，就是與該地隔海相望、關係密切的日本。共匪對日本自民黨政府「一貫存有敵意，去年秋季，北平政府「堅持美日安全體制，配合美國在亞洲的軍事冒險，爲最反動的政權」。顯係攻訐安保條約，尤其嫉視美國在琉球的軍事力量。日本政府爲了國家重大利益着想，乃是積極參加亞太國家的集體安全體系，並繼續和美國加強防衛上的聯繫合作，而非急謀改變琉球現狀，爲左派助勢，使共匪稱快。

總之，琉球歸屬問題，在法理與程序上，應由有關國家協商解決，在共匪煽動發展核子武器的現階段，更關乎亞太國家的集體安全，望日本政府格外提高警惕，重申身和友邦長遠共同的利益，勿同於旁的敵人所乘。

生 志 昭

江あ11日か(す2に、御承知のことと思わ
 れるが、本件社説内容に「2日、在台北時事
 通信のよの朝日新聞特派員から、たすに打
 電され、朝日およびその他の邦字紙もこ
 れを報道した。)その後、館員が日民党
 某幹部に本件社説に送る意見を取
 りたところ、全人は中央日報が沖繩問
 題を扱上げたのは、日民党の主張を伝
 えるためではなく、日本政界有力筋の意向に
 よったものである旨内話にて経緯がある。その
 後、本件に「2日」確認されたいまに「あ」に「あ」に
 いたところ、最近十全大会の取材が向、支局側
 設の下機分がよの地合に「あ」のため、某台に
 反饋費新聞政治部常盤記者(総理官
 邸詰副キヤン)が館員に語った沖繩

問題に送る行政院新聞局魏景蒙局
 長(戦時中におけるわが国の内閣情報局
 総裁に該当する。)および張群総統府
 秘書長談(何れも単独会見)は、前記日
 民党某幹部の内話と表裏するところにも、非
 公式ながら、個人的見解であると断つてはいる
 もの、張群および魏景蒙の地位に鑑み、
 日府側の沖繩問題に対する基本的態度
 の一端を知らし参考と分るべき。下記の
 とおり報告する。なお、御如才文に「あ」
 (当日の情および本件のデリケートな性質に鑑み、その
 は思われるが、~~取扱~~取扱いたす
 いたすは特に御留意ありたい。

記

1. 常盤記者内話

(1) 魏局長との会見

新聞局長に面会した際、沖
 縄問題に関する中日側の意向を質したと
 こで、全局長は、この問題は外交問題に
 属し、新聞局長としては公式見解を述べ
 る立場にないとの、全く個人的見解による
 ものである旨前置きするとともに、全局長の
 名は絶対出さないことを前提条件として
 次のように答えた。

「沖縄問題には安全保障に
 関するものと、領土に関するものとの二つの面
 がある。アジア太平洋地域における安全
 保障の観点からいえば、わが国は韓国
 と全く同じ考えを抱いている。しかし、こ
 れをどうすべきかということについては、結局、
 日米両国の話し合いに委ねるほかないと思

う。また、沖縄の帰属問題についても、日本
 側の話し合いに~~委~~^委ねるべきであると考えてい
 る」

そこで、さらに自分(常駐記者)から、
 「日本に復帰することにつき、中国は異議
 はないのか」と質問したところ、全局長は
 「貴下はこの側の事情を知っておられると思
 うが、日本新聞にもキヤリーされた中央日
 報の沖縄問題に関する社説は、日民党
 または中日政府の意向を代表したものでない
 い。案ずるに、領土の問題については、その時
 点において考えざるべきものであつて、少くとも現
 時点からいえば何も考へていない」と答えた。

(この点については3月10日付瑞信社秘字427号
 をもとに報告した本使の復函に対する特経口部

長の答えと相通するものがある。)

(2) 張群秘書長との会見

その後、張群秘書長とも單獨会見したので、その際、全秘書長の沖繩問題に關する見解を質したところ、全秘書長は、「われわれは領土の帰属に關しては先や角いことである。しかし、東アに於ける安全保障という見地においては、韓日全株極めてこれを重視している。たゞ、沖繩の日本復帰に關しては、サンフランシスコ条約にも關係諸国と協議すべき旨明記されているので、日本は事前には韓日を含む關係諸国と合議のようなものを決すべきであると思う(当館註、本項常盤記者が張群の発言として

述べたまま記載する。) ながら、自分は、日本は沖繩問題を余りにも政治的に利用したがまゝに思ふ。これでは結局共產党や左翼に乗せられてしまうこととなる恐れが多分にある。」と答えた。

自分(常盤記者)は前述した魏局長が張群秘書長談より、日村とては、沖繩の日本復帰に關しては、特に問題が起るまい限り、あえてこれに反対する考えは現在のところ抱いていないように思ふ。然る張群秘書長が語った事前合議云々という事は、日本側限りで決めてしまわず、一言挨拶があつて然るべきであるということの意味としていた。

流伝禁止

極秘

公 信 写

未北1 至急情報 (No. 642) 至情報受 7月3日 配布 7月4日

第 973号 昭和 44年 6月 30日付 (7月1日受信)

外 務 大 臣 殿

在 中 華 民 国
原 臨 時 代 理 大 使

沖繩問題に關する國府要人の談話及び新聞論議

(要旨)

1. 本國國防研究院主任 張英昶氏は、最近
本國を訪問した 防衛研修所所長 有吉久雄氏の
質問に対し「沖繩は中華に属すべきである
。 中華民國が今後之の沖繩問題に對する態度
を公に表明する時は日本の政治情勢を考慮するが

GA-1

外務省

外務省

有力である」の私見を述べた由。

2. 6月24日付 China Post 紙付の社説

に於いて「沖繩の住民は明に之を望む

べきである。日本は本國に充分に之を考慮

し入れなければならない」と述べた。

(本文)

1. 最近本國を訪問した 防衛研修所訪問団は

6月24日 本國の國防研究院を訪問しその夕刻

同研究院主催の晩餐會に招かれたが、防衛

研修所所長 有吉久雄氏は^{中華}同席の國防研究院

主任 張英昶氏に「沖繩問題に關する私

見を尋ねた所、張氏は可成り強い口調で

「終戦前後の日本領土處理に於いて、連合國

側が協賛した際、蔣總統の意見は始終

して「台湾は元來中國の所屬であるので

GA-1

外務省

当然 中国に返還されるべきであるが 沖縄
 はついには元々 琉球王国であったが、中国の
 所屬にすべきであるのが当然である。暫く
 米國が統治した後には然るべき手段を経る
 日中 何れにも居るべき琉球王国とすべきである。
 小島といふ、大動向 キフハス等の例に見ても
 く琉球王国とすべし例は少くない。”と云ふことであ
 った。今この二の海軍統帥の沖縄に關する
 意見を述べたといふことである。
 世界及びアジアの情勢は變つていく。今は有明
 にはおけるが、沖縄の價值が論議されていくが
 將來の平和時において、沖縄は琉球王国
 であつた方が一番 極東の情勢安定に益打
 ちであると思ふ。
 今日この沖縄問題が喧しく論議されて

いろいろ、我が方は沈黙を守つていく。その理由
 は日本の沖縄施政権返還の事が余りにも
 強固から、今の時勢では敢て態度を表明
 しない方がよいことである。
 沖縄の返還交渉の問題は単に日米間の問
 題ではなく、我が國にとつても重大な關心を掛
 けるべき問題である」と述べた由。
 尚同席には 菅官から、徳丸防衛駐在官
 が ~~1~~ 陪席した。
 2. 6月24日付 China post 紙は、The problem
 of OKINAWA」と題する社説を掲げ、沖
 縄返還を論じて支持する言論誌を行つた。居り、
 上記の張英的氏の記者話と一脈通ずる
 ところがあるので、その要旨を参考として
 報告す。

China post社説要約
(新聞記事の括弧を別添)

1. 前文 略

2. 沖縄は一時日本に所屬してゐたことは事實である。そしてこの群島の返還を要求することは、日本 (island empire) にてつては自然のことである。然し沖縄がわすか / 世紀を過ぎた昔、日本に正式に所屬する前には独立國があつたことも事實である。日本と米國は沖縄住民の独立を望むかも知れないと言ふ事がある。かつて考えなくてはならないか?

3. 此の疑問は、沖縄の / 記者に打つて答へられた。6月3日と4日の沖縄時報に掲載された彼の記事は先週のChina post社説も転載された。此の沖縄の記者山里梁氏の意見によれば「沖縄人は琉球政府

の建物の上に「独立」と沖縄住民の一人一人が自らを誇る「自尊」の旗が揚げられた時に始めて救われたい」と主張してゐる。

4. 沖縄の住民が独立を望んで居ることは極く明白である。彼等は^{日本を}「日本」の島が返さるべき母國と考へてゐる。物々米國と日本が此の英を沖縄返還交渉において考慮すべきことを力説しつゝある。特に重要と云ふは、沖縄はアメリカの自由諸國が英帝主義の侵略に對決する上において極く重要な島であると言ふ事實である。

(以上)

付記: 別添

續けてあり、吾紙もまた事実報道を控之目
 に行なつた程度である。

2. 5月下旬香港駐在河本毎日新聞特派
 員が魏家新局長に單獨会見し、沖縄
 問題に関する日村の態度を質したところ、全
 局長は個人的意見として、結論的には「日
 米間の話合にあゆるより外交的と思ふ」と述
 べた趣であるが(4月24日付陸信秘報第
 668号中記1の讀賣新聞常盤記者に述
 べたところと殆んど全じ。)、全局委員の内閣
 によれば、会見終了後、特に局長を全特派
 員の下に遣わし、沖縄問題に関する局長談
 は如何なる形式によるに拘わらず、絶対に
 外部に出さざらうにして欲しいと申入れたと
 のことである。

3. 6月2日付中央日報は「琉球独立協会
 代表蔡璋台北に到着す」との見出しを用い、
 1日沖縄から台北に飛来した蔡が、沖縄問題
 に関する琉球独立協会の基本的態度につき、
 次のとおり語つた旨報じた。

「琉球は日本固有の領土ではない。
 琉球の未来における地位は、本来の独立の原
 状にもとすべきである。日本が琉球を日本の
 領土の一部であるとして、その返還を要求すべ
 きは、琉球の政治独立の基本的権利を侵害す
 るものである。琉球の地位はサンフランシスコ
 条約で確定されてあり、琉球を日本へ返還
 すべきであるという主張は何手法的根拠
 がない」(別添功報A号照、中央日報以
 外は報じていない。)

なる、蔡（本名 喜名 尚正）は1947年頃より、琉球人民友好協会理事長・琉球革命同志会会長として、台湾と沖縄の日本復帰反対とその根拠を主張し、毎日各紙は全人の談話や活動を大々的に報じているとある。しかし、その後蔡の粗暴な振舞いにより、到る処で中口人（本省人を含む）との間に問題が起これ、蔡に対する非難が激しくなつた。一方、日府側も沖縄の独立を暗に助長するようになると、中口にとり好ましくないと云うことから、早稲前日民党は各報道機関に対し、爾後蔡の談話は一切取上げないようとの指示をよえたといわれる。以来全人の談話は報道されなくなり、蔡は中共通説社に対し、抗議文を送ったこともあったとのこと

である。何れにせよ、こうした経緯のある蔡の談話が、再び日民党機関紙に掲載されたことは注目される。

このほか、China Post もまた本月19日より22日まで5日間にもわたり、連日かなりの紙面を割き、沖縄人著述家山見エキチの著した筆に交る 'Japan is not our Fatherland' の英訳を掲載した（別添切抜B参照）。

4. ASPACが4回閣僚会議終了後、17日魏道明中日代表団長とともに滞日の途中にいた沈劍虹外交次長は、途中単身沖縄に立ち寄り、一行より1日遅く18日作日した。21日付聯合報は「新南剪影」欄でこれを取上げ、沖縄滞在1泊というにとりあげた。

知らずにも戦争をふたたび朝鮮人民におしつけるなら、中国人民はこれまでどおり、兄弟の朝鮮人民と同じ側に立ち、アメリカ侵略者を徹底的に打ち破るであろう。

アメリカ帝国主義が戦後アジアでおこした侵略戦争は、いずれもアジア人民の革命戦争によって打ち破られてきた。当面、アジアの情勢は、これまでのいかなるときよりもすばらしいものがある。アジア人民の革命勢力はこれまでのいかなるときよりもいっそう強大になっている。アジア人民がいっしょに団結し、アメリカ帝国主義とその手先に反対する闘争を最後までおしすすめさえすれば、かならずアメリカ侵略勢力をアジアのあらゆるところから追い出すことができるであろう。

米帝は、(3)「米帝」の「沖縄返還」と海外基地の「調整」を名目として、日本全体をアジア侵略の前哨基地と兵站基地に変えている。

米帝は、(3)「米帝」の「沖縄返還」と海外基地の「調整」を名目として、日本全体をアジア侵略の前哨基地と兵站基地に変えている。

報道によれば、米帝は今年の3月、反動的クーデターを起し、侵略の戦火をインドシナ全体に拡大してから、日本における軍事基地を一段と強化しているとのことである。沖縄嘉手納基地のB-52爆撃機は毎日2回編隊でインドシナ地域を猛爆している。インドシナ侵略戦争に加っている米第7艦隊の軍艦は、横須賀、佐世保等の軍港に頻繁に出入している。今年の3月、4月、7月の期間だけでも、米国の空母、コンステレーション、コーラルシー、ジャックリラが相前後して横須賀に入っている。佐世保海軍基地に進駐した米艦艇は2年前に比べて50%もふえている。日本の共同通信の報道によれば、米上院の軍事委員会は7月8日、米第7艦隊の海軍陸戦隊の兵士中、ヴェトナム戦争に参加したものは約8,000名おり、いま、かれらは日本本土と沖縄の基地に待期中であると公表した。陸軍長官、リッカーは次のように述べている。米国はいま、沖縄を米軍の太平洋地域における供給中核基地に変えるよう計画中であると。国防省は6月5日、日本、南鮮、東南アジアに駐屯する米侵略軍部隊への一括供給をするため、極東の米軍兵站部門もハワイから沖縄へ移転するであろうと公表した。陸軍参謀長、ウエストモーランドは先日、

沖縄で次のように述べた。「1972年にたとえ沖縄が返還されても、西太平洋地域における米軍基地として沖縄の重要な戦略的意義は永久に減ることはないであろう。かれは更に「沖縄の陸軍第2弾薬庫はベトナム戦争中、大きな役割を果たしている。西太平洋地域における第2弾薬庫の供給能力を目下研究中で」と放言した。米軍当局は米本土から沖縄へ大量の侵略軍と作戦物資を輸送するため、米空軍のO5Aギャラクシー大型輸送機を嘉手納の米軍基地に飛ばしている。

事実が物語っているように、米帝のいわゆる駐日米軍基地の「調整」なるものは、只表面上の数字の縮小だけで、実際は日本の米軍基地を大段的に強化、結集しているのである。

沖縄基地を強化するとともに、米帝はいま、日本本土の沖縄化を急いでいる。例えば三沢の米空軍基地はいま、インドシナ侵略と密切な関係をもつ米空軍基地となっている。現在、この基地は54機のフランドム戦闘爆撃機をもっている。伝えられるところによれば、この基地は更に秘密裏に150個以上の核兵器をかくしているそうである。米原潜はたえず横須賀、佐世保に入港している。現在まで、米軍のO5Aギャラクシー大型輸送機は沖縄の嘉手納米軍核基地から横田米軍基地に3度進入している。横田米軍基地はいま、一段と強化されている。これは米帝が沖縄ばかりか、日本本土でも軍事基地を強化していることを暴露している。

米帝は更に日本本土を米帝のアジア侵略の最大通信基地とレーダー基地に変えている。米帝は日本に32か所の通信、レーダー基地を設け、スパイ活動とミサイル攻撃を指揮する手段としている。日本紙の報道によれば、米帝は横田、厚木、板付、岩国、嘉手納等の基地を使って常に数十のスパイ機を飛ばし、日本付近で悪い活動をし、同時にまた横須賀、佐世保をスパイ船の主要港としているそうである。

そればかりか、米帝は自分たちの日本軍事基地を極力強化するとともに、ニクソンの「アジア人同士を戦わせるいわゆる新アジア政策」を推進するため、すでに復活している日本軍国主義勢力を起用し、一段と佐藤内閣をそそのかして「自衛隊」の拡充、強化に狂奔している。例えば第3次軍拡計画ではミサイル基地網建設を決定した。能勢町、滋賀県今津町養庭野のナイキ、ハーキュリス地対空ミサイル基地の建設は日本軍国主義の軍拡、戦備の強化に採用されている重要な段取りである。

米帝がたえず日本の軍事基地を強化、拡充している悪らつな行為は、広はんな日本人民の強い反対を激起している。戦後25年、米帝は日本を軍事的に占領、半占

領して、日本を支配し続け、日本に多くの軍事基地と軍事施設をこしらえた。これらの軍事基地は米帝に利用されアジア各国への侵略を行っているばかりか、これは日本を押える重要な手段であり、日本人民に大きな災難をもたらしている。今日、日本における米国の軍事基地は、第1に日本人民を抑圧するものであり、同時にアジアの安全に対し、大きな脅威となっていることを日本人民は十分に知っている。偉大な指導者、毛主席は次のように指摘している。「日本民族は偉大な民族である。かれらは米帝を自分たちの頭上に長期におたって君臨させるはずは絶対にない」と。現在、日米「安保」反対、米軍基地反対闘争は火のように燃え上り、新しい高まりが続いてあらわれている。日本人民は必ず斗争を通じて、米帝を日本から追払い、独立、民主主義、平和、中立の願望を実現するであろう。

（4）軍事結託に拍車をかける日米反動派

（9月22日、人民日報記事）

佐藤内閣は米帝国主義のアジア侵略の急先鋒を積極的に担当するため8日、中曽根防衛庁長官を米国に派遣し、活動させた。

これは昨年11月の日米共同コミュニケ発表後および日米「安保条約」が無期限に延長された後における日本の軍事項目の最初の米国「訪問」であり、また日米反動派が新しい軍事結託を行なう重要な一歩である。

中曽根はワシントンに到着後、レアード国防相、ロジャーズ國務長官、国家安全保障問題担当大統領補佐官キッシンジャー、上院軍事委員会委員長ステニス、上院外交委員会委員長フーブライト等軍政界の頭目たちと一連の秘密会談を行った。

会談中、レアードは中曽根に、アメリカの「核のカサ」のもとでの日本通常部隊の「改善」について検討してほしいと要望した。ステニスは、日本がアジア太平洋地域で「軍事的役割を發揮する」よう望んだ。これにたいして、中曽根は、日本は長期にわたって日米「安保条約」を堅持し、1972年から始まる第4次軍備拡張計画で軍事力の増強につとめると表明した。

中曽根はニクソンの「アジア人同士を戦わせる」反革命戦略の実現に果たす日本軍国主義の役割は極めて重要であると考えている。

また、日本の南ヴェトナム、南朝鮮、タイかいらい集団にたいする「援助」供与を約束するとともに、アジア開発銀行とアジア太平洋協議会を合併して、新しいアジア太平洋地域の反革命的同盟機構をつくることを提案した。

中曾根は今回の訪米中、日本軍国主義の南朝鮮にたいする領土的野心をいちだんと暴露した。かれは訪米の4日まえ、当時訪日中の米陸軍参謀総長ウェストモーランドに、日本は南朝鮮を「前進拠点」とみなしていると語った。ワシントン到着後、かれはアメリカの軍政頭目と南朝鮮侵略問題を重点的に討議した。9月17日には、かれはまた、ホノルルでさかんに放言し、日本は「外部勢力」の南朝鮮にたいする「侵略」に「嚴重な注意を払う」であろうなどといった。

これは日本軍国主義が南朝鮮を「ニクソン・ドクトリン」執行の一つの具体的項目と対外侵略の重点目標に組み入れていることを再度示したものである。

中曾根はそのほか、在日米軍事基地の調整 — 沖縄、岩国、三沢、横田、佐世保、横須賀などの重要基地はアメリカがひきつづき保有し、その他の基地は一部を日米共同使用とし、一部を日本が「接收」する — について提案をおこなった。かれの提案は、主人アメリカに歓迎された。なぜなら、このような調整はアメリカの海外支出を節約することができるばかりか、十分に日本軍国主義の役割を発揮させ、日米両軍の作戦機能の統合を促進することができるからである。

しかしながら、このいわゆる「調整基地」もこれらの基地に対する米帝の使用権にみじんも変更を加えるものではなく、たとえ以前に譲渡した日本の基地でも、緊急事態には再び入って来ることができると協定に規定されている。これは日米反動派が日本人民をあざむき、日本人民の反米闘争を緩和しようとする陰謀の手口の一つであり、またいわゆる沖縄「返還」というベテンの「増補版」であり、日本本土「沖縄化」のまた一つ具体的な段取りである。

レアードらとの会談のなかで、中曾根は原子力の平和利用という看板をにかけて、アメリカに濃縮ウラン製造技術の日本への提供を懇願し、また、日米間で濃縮ウラン製造の合併事業を設立するか、日、米、オーストラリアのあいだで濃縮ウラン製造の合併事業をおこなうことを提案した。しかし、「平和利用」の看板も、核武装を急ぐ日本軍国主義の焦慮をかくしおおせるものではない。西側の新聞・雑誌が中曾根のこの提案を論評したときにのべているとおり、「燃料用の濃縮ウランを製造する方法で、同じように熱核兵器用の濃縮ウランを製造することができる」のである。

アメリカ局長
参事官
北米第一課長

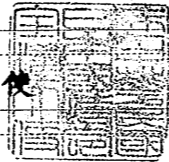
台第1055號

昭和44年7月24日

外務大臣殿

在中華民國

子 臨時代理大使



沖繩の畜産野畜問題に對し
当地紙編輯

沖繩米産基地に對し畜産野畜
問題に關し、7月21日付 401付、ニ下報
中紙誌を掲載するに、在り中沖米
産地に對し、畜産の増加と共に
その野畜の沖繩畜産に對し編輯に
關し、紙誌等に下記の如く御意を



GA-4

外務省

報告書

記

129年の畜産の増加に對し、深刻な
影響を受けること、沖米の増加
と共に、畜産の増加と共に過剰な
米の沖米の畜産の増加、積累
の傾向にあり、沖米の沖米の
増加と共に過剰な畜産、129年の
漸増の増加、米産の増加の増加
及び、129年の米産の増加の増加
の増加の増加の増加の増加の増加
の増加の増加の増加の増加の増加
の増加の増加の増加の増加の増加

129年の畜産問題に對し
現地の畜産の増加の増加の増加の増加の増加

GA-4

外務省

長崎を相手にしたのは、先づこの間に
ハブの12月、~~砲弾~~砲弾とこれから
人道の心にある。12月、~~砲弾~~砲弾
の心、~~砲弾~~砲弾の心。渡年抗討の
書から打ち撃を以て、沖提の明
是非は~~砲弾~~砲弾と~~砲弾~~砲弾と
動機にある。 ~~砲弾~~砲弾

沖提の~~砲弾~~砲弾。194
年。米軍の沖提基地は伊比利半島を
持つに到る時、米軍は如何の
事態に直面するに到らざる。この
時、核兵器は米軍の禁である。
最終的に、東アジアの防衛に、米軍は
沖提基地の運用と失致する。

別紙添付

Propaganda About Gas 7/21

JAPAN professes to be deeply shocked at the storing of nerve gas on Okinawa.

That is poppycock and a mere making of propaganda.

The Japanese, who so easily and conveniently forget their own pre-1945 conduct, know that Okinawa is the foremost advance American base in the Pacific.

Besides nerve gas, the Americans also keep nuclear weapons on Okinawa and have every right to do so without so much as a "by your leave" to the Japanese.

Unless and until the Ryukyus are handed to Japan, the United States has no obligation to limit its activities there nor to report them to Tokyo.

The Japanese were guilty of misrepresentation in claiming that nerve gas has been used in Vietnam.

None of the virulent gases have been employed in the Vietnam war. The United States has used defoliants, tear gas and similar weapons that do not inflict permanent injury.

In any event, the horrified reaction to the thought of gas does no credit to Japanese intelligence. Some gases are more humane than high explosives and jellied gasoline, not to mention the rockets and bombs of the Viet Cong.

Gas warfare has been limited not by the awfulness of the weapon but by the difficulty of control.

The Japanese are aware of this. Their indignant protests are not motivated by concern about gas but by their determination to get the Ryukyus back next year.

This is an example of what the United States will face if the islands are surrendered and the Japanese are given a veto over American military use of Okinawan bases. First it would be a ban on nuclear weapons and gas. In the end the "Americans go home" signs would go up and the United States would lose the use of a base that is important and perhaps essential to the defense of East Asia.

4x付. = 2-2

昭和44年7月21日

田中 敬

アメリカ局長
参事官
北米第一課長

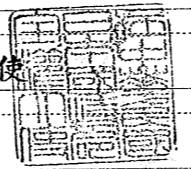
台 第 1168 號

昭和 44 年 8 月 21 日

外務大臣殿

在 中 華 民 國

季 臨 時 代 理 大 使



沖繩 返還後の米軍基地使用
問題に関する各地紙報道

8月20日付 甲種時報、19日付朝鮮
朝日新聞、沖繩返還後の米軍基地
使用問題に関する報道内容の一部
1回最下段以外電報に下記のとおり
抑々、4日、同日付 China News
午打問に同以外電報に詳細報道

- 要処理
- 首席参事官
- 渉外調査
- 漁業空
- 科学協力
- 連絡調整
- 調査
- 力ナ夕
- 庶務



GA-4

外務省

1915

在 2 紙 (除) 甲種時報以下各紙の1回付
関係記事の送付を、御希望の報費に
記

甲種朝日新聞、沖繩返還後
返還後の米軍基地、19日付、米紙の同日
発表の記事は、台湾防衛に及ぼす影響
の意向を、自ら報道した。同紙の分析
府部は、19日付、19日付、
4日付の防衛記事と、同日付、
19日付、沖繩返還後の米軍基地
9日付の送付。同紙の朝鮮
防衛の面から、米紙の沖繩基地使用
問題に関する同記事の送付を、
希望する。

別紙添付

GA-4

外務省

借用琉球基地 日本另有怪論
 (東京十九日合衆國際電) 朝日新聞今日說，如果琉球歸還日本，日本將不願在琉球設置美軍基地，日本不願在琉球設置美軍基地，日本不願在琉球設置美軍基地。

1952年8月20日付
 中國時報

Says Okinawa Not To Be Used To Defend Taiwan

TOKYO, Aug. 19—(UPI)—Japan doesn't want to promise that U.S. military bases on Okinawa could be used to defend Taiwan, if Okinawa is returned to Japanese control, the Asahi newspaper said Tuesday.

Quoting Foreign Office sources, the paper said Japan's reluctance to get involved with the defense of both Taiwan and South Vietnam is becoming an issue in negotiations for return of Okinawa.

Asahi said Japan has given "fairly satisfactory" assurances that it will automatically consent to American use of Okinawan bases in the event of a flare up of the Korean war.

It added that American negotiator Richard L. Sneider is trying to get a clear answer from Japan on two other questions:

—What would Japan do about U.S. use of Okinawan bases in the event Communist China tried to invade Taiwan, where the rival Chiang Kai-shek regime is entrenched?

—In the event the Vietnam war is still going on when Japan gets Okinawa back, will the U.S. still be able to use Okinawa as a base for bombers attacking Vietnam?

Asahi said Japanese Foreign Office officials have told Sneider that Japan's own safety is involved with that of Korea.

The Japanese argue that a defense of South Korea would not involve U.S. bases in Okinawa alone, but would depend even more on U.S. military installations in Japan proper.

Japan is asking that the Okinawan bases be placed under terms of the U.S.-Japan Security Treaty, which governs American use of bases in Japan proper. The treaty requires "prior consultation" between the two governments before the U.S. could use the bases in time of war.

Asahi said that although the Japanese have indicated strongly that they would agree to use of the Okinawan bases in a new Korean war, they have been reluctant to put it in writing.

However, Japan has tried to avoid any clear cut commitment to the defense of Nationalist China, though she extends the Chiang regime diplomatic recognition.

"Up to now it has been a perhaps unbreakable point in Japanese foreign policy not to regard the China relationship as settled," Asahi said.

"Here Japan is trying to avoid the same sort of guarantee that would apply in the case of the Korean peninsula.

She does not want to promise Japanese military cooperation for a defense of Formosa."

The use of U.S. bombers operating from Okinawa for attacks on Vietnam is not popular in Japan, and Prime Minister Eisaku Sato might find it hard to commit Japan to such an action.

Asahi said the Japanese government hopes the South Vietnam war will be over by 1972, the date it wants Okinawa to revert to Japanese control.

"The Vietnam war is obviously an issue," Asahi said. "because American blood is being shed there."

The United States conquered Okinawa, an island south of Japan proper, during World War II in fighting that cost the lives of 14,000 Americans and 120,000 Japanese.

It has ruled the island since 1945, constructing a network of 117 bases that form the keystone of U.S. defenses in the Far East. The U.S. Defense Department is reluctant to give up the freedom of action it enjoys on the island.

A local government supervised by the U.S. military manages the affairs of 972,000 Japanese speaking people on Okinawa and other islands in the Ryukyu chain.

China News 昭和 44年 8月 20日

ソカ
ビ

大政事外外儀官
務務典房

臣官官審審長長
儀給人電厚計

書文会管給

調査長

領移長

参企析調

参領旅移

ア

参地中東

長北東西

参北北保

長

中南審

参一

参西東洋

長西東

近ア長

参書近ア

長

次総経国

長

参貿統

参政技二

参条協規

長

参政経科

長

参道内外

長

参道内外

長

参道内外

長

参道内外

長

参道内外

電信写

注意 取扱部の内
1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

88

総番号 (TA) 3460
71年7月12日12時00分 中国 発
71年7月12日16時06分 本省 着

外務大臣殿 板垣 大使 臨時代理大使 総領事 代理

オキナワの核兵器台湾移送に関するワシントン・ポスト記事に対する当地紙報道

第431号 平 至急
//日付れん合報等各紙は、UPIワシントン電をキャリーし、表記のワシントン・ポスト記事の内容をかなり雲しく報道するとともに、中華民国外交部スポークスマンは、本件については何等の情報にも接していないと述べ、政府の態度を表明しなかつた旨報じている。御参考まで。

(了)

(宝之 12/1)